

## 印刷物・映像情報の電子ファイル化と Web上で高速検索可能なシステムの構築（2）

○松浦秀起・辰己賢一・吉田義則・三浦勉  
高山鐵朗・和田博夫・平野憲雄

### 1. はじめに

京都大学防災研究所は創立以来、わが国における自然災害研究の中心的役割を担うと共に、災害科学的研究者による研究ネットワーク形成を主導してきた。そして研究の一環として年報を始め、論文やハザードマップなどの印刷物と実験・観測・調査など映像記録等が、防災研究基礎資料として蓄積されてきている。このような膨大な資料を一般に公開し、分かり易い形で提供することは、防災学研究を推進させ、社会にとって生きた防災情報源として付加価値を高めることになると考えられる。

本研究は、平成14年度に採択された21世紀COE研究分担課題「防災研究所で蓄積された印刷物や映像情報の電子ファイル化とホームページで高速検索可能なシステムの構築」(3年)であるが、平成16年度はその最終年にあたる。多くの協力者ののもと、前年度までに年報の第45号～34号までの電子ファイル化とそれら年報をホームページ上で高速検索できるシステムを構築した。今年度は、残りすべての年報の電子ファイル化、及びBulletin、公開講座、静止画像、動画像といった年報以外の防災資料を電子ファイル化する手法の確立と、それら防災資料を利用者にとって、よりわかりやすい形で提供するシステムの構築を目的とした。

### 2. 防災研究資料の電子ファイル化

防災研究所年報は、1958年に第1号から2004年までの第47号へと続いている。前年度までに電子ファイル化できたのは、12年分である。残り33年分を、前年度と同じ手法で電子ファイル化すると、1年で処理できる見通しがなかった。今年度は処理能力改善のため、高速スキャナの導入と処理手順の工夫をした結果、三倍近く作業効率をあげることに成功した。その中でも特に大きな効果があった二点について以下に示す。

#### <紙媒体からデジタル画像ファイルへの変換>

従来、イメージスキャナを使用していたが、今年度は高速スキャナを導入して、紙媒体のドキュメントをデジタル画像として高速取り込みできるようになった。

#### <取り込んだデジタル画像の編集作業>

従来、画像編集ソフトによって1ページずつ手動で汚れを取り除いていたが、特定の画像編集をバッチ処理するソフトを使用し、画質調整(明るさ、ガンマ値の変更等)を一括して行った。これによりある程度の汚れを自動で取り除くことに成功した。そのため、一括して画像処理できる部分が多くなり、作業効率が改善した。

### 3. 防災情報検索システム

現在公開している検索システムでは、多種多様な防災資料の中でも限られた定型のドキュメント資料しか検索できない。今後は、静止画像(A4サイズを超えるものを含む)、動画像等の他メディアの検索ができる機能を追加し、ユーザにとって使い易いシステムに改良する必要がある。

そこで、防災資料の共通項目であるタイトル、著作権(出版情報を含む)、概要の三つを柱として、年報以外の防災資料も検索できるサンプルを紹介して、最善のシステム構築を進めていきたいと考えている。

### 4. おわりに

平成16年度中に、Bulletin第45号～20号、公開講座第1回～14回を含めた、約6万ページを公開し、Web上で高速検索可能な防災情報検索システムの充実をしていく予定である。

本研究において貴重な資料提供など技術室へのご理解とご支援を頂いた関係者の皆様方に厚くお礼を申し上げます。